

諸家系譜

位

曾我 曾谷

太政官文庫			
三五	三三四九	和	書門
冊	函	號	類

内閣文庫			
五三函	二二五	三三四九	和
架	冊	號	書

内閣文庫	
番號	和 32649
冊數	225 (152)
函號	156 23

共二百廿五函

共八十五



先祖書

了
一
了
算 年

平氏
四百餘年
後
始
遷
書

唐
曾
我
家
子

後足利義時之孫修之致其之洞

曾我 本國相模

家之役 幕之役

九月廿三日 九月廿七日 九月廿九日

高望王子領守將軍良文八代之孫胤在後國任人
曾我左衛門祐信十三代之孫曾我左衛門助兼備男

又佐藤

平尚祐

生國不詳 幼名又三郎 其原以五計氏

元禄初年 羽柴中將守勝親女別

母幼名藤原白常降不詳女

元江州勝所當王

後赤山園對子景佐女

右後妻山園對子多景佳女初嫁在御座之御親家
母曰不之也重泰二歲之時父賴泰病死其母
重泰子右後不復其初尚祐之妻有之也
賴泰後家再嫁之知子重泰其門有子也其後
彼作有番所之知父彼子之公當特幸御
大和守春行家初住此公尚祐再嫁後三男
包師出子法公重泰與者異父兄中才也
始靈陽院殿義昭公所後人前幼少存信奉
不仕其度國信賴隨父仕天正十八庚寅年
相州小田原陣之良秀若公信賴祐田海賊言
相後孫所降所尚祐系上

清目見仕信賴事上清所評之
所至判之清言被多意誠因頗急安堵
被作有御國仕右
清言今家元曾我父是朝祐方不仕
其後文源之甲午年常真伊豫國
其前依其親公者檢一人秀若公也其後
彼言出尚祐後依乃其內其後存後國
彼存我比不長日也其末改清礼
是痛為和仕難仕父無原助紫
江州七山行後家生仕其前四百
淨瓶仕其法公其申或延又其朝祐

予今所撰其後更以設後決未尚祐體物
相類以在摺別租業下德之孫惟順也備衣
仕考至公其細考考公尚祐也其何世其後
細川曲舞少少身少少身少少身少少身少少身
父助系少少身少少身少少身少少身少少身少少身
公亦以系少少身少少身少少身少少身少少身少少身
滿是也其後慶長上深子身少少身少少身少少身
亦身少少身少少身少少身少少身少少身少少身
夢田中少少身少少身少少身少少身少少身少少身
右考若公身少少身少少身少少身少少身少少身
所撰仕公其後慶長上深子身少少身少少身少少身

沖澤

於澤原 彼之古出於池子石之石身少少身少少身少少身

被任 沖澤守 沖書系 沖仍法 哉

沖家用可被任身蒙 沖也

止意少少身少少身少少身

台便院係 沖奉公 沖少少身少少身少少身

相授守 永井右子少少身少少身少少身

不詳 沖少少身少少身

台便院係 沖奉公 沖少少身少少身少少身

沖復法 沖少少身少少身少少身

沖少少身少少身少少身

大猷院授將軍定之以後如常之被
 坤之德考被伊丹定永元甲子年
 名詳

伊丹古代之後成上之定永之西定年二月十日
 卒年之孫九歲定永大雅山海禪年十卒年
 汪名見性院苦區為跡重居也

右海禪年者右祐用基少壯也

右南祐家傳年法公是利公方家一古實
 書法傳者定年山石存子大久保右左衛門
 不致右傳法公之子孫系同性者其後廣更
 相讓不中右右生心之相讓也
 月一先年數燒一高書也未燒也仕相分也

丹後
 古祐

物名 在定印 又在處

母羽柴下信守勝姬女

右之當村多合曾我父乃朝祐家第

山澤公喜細朝祐書出中

大妻重延嫁本造之右名略詳

母弟同 細川朝律守次生嫁 下即幼少愉也又

母前同 在國幼少愉也又元系於伊丹之屋長也原甲年
 月一不詳細川朝律中書右大臣古隨方法

利祐

母在自

年八月不詳細川朝律也

作... 五... 物... 以... 信... 被... 下... 至... 元... 和... 元... 年... 大... 坂... 坂...
 所... 津... 餘... 下... 高... 名... 者... 地... 方... 如... 百... 名... 村... 成... 个...
 同... 于... 己... 年... 二... 月... 丁... 酉... 年... 歲... 次... 接... 二... 海... 年... 古... 雄... 山...
 海... 津... 寺... 上... 葬... 人... 實... 子... 冬... 一... 家... 以... 他... 法...

女 母 弟 曰 山... 院... 為... 嫁... 后... 迎... 在... 名... 為... 仲...

女 母 弟 曰 陸... 府... 町... 某... 河... 塚... 之... 宅... 古... 年... 長... 利...

包... 物... 湯... 石... 精... 之... 物... 古... 年... 在... 山... 院... 寺... 伊... 孫... 守... 伊... 孫... 守...

元... 和... 元... 己... 年... 朔... 九... 歲... 元...
 台... 任... 院... 佛... 初... 為... 山... 自... 身... 任... 任...

定... 永... 三... 高... 年... 朔... 初... 艾... 尚... 祐... 海... 武... 千... 石... 西... 風... 古... 祐...
 以... 乃... 至... 古... 祐... 初... 為... 任... 任... 之... 以... 百... 名... 之... 男... 包... 物... 為... 至...
 山... 院... 知... 山... 書... 院... 伊... 孫... 守...

台... 任... 院... 佛... 伊... 孫... 守... 不... 以... 法... 知... 以... 不... 出... 野... 國... 是... 利... 劫...
 定... 永... 六... 己... 年... 朔... 初... 為... 所... 古... 年... 伊... 孫... 守... 伊... 孫... 守...

定... 永... 七... 庚... 午... 年... 朔... 初... 為... 所... 古... 年... 伊... 孫... 守... 伊... 孫... 守...
 伊... 孫... 守... 伊... 孫... 守... 伊... 孫... 守... 伊... 孫... 守... 伊... 孫... 守... 伊... 孫... 守...
 定... 永... 十... 癸... 亥... 年... 朔... 初... 為... 所... 古... 年... 伊... 孫... 守... 伊... 孫... 守...

大徳院存

源氏五郎宗仲或右名宗仲任住持 寛永十一年七月廿日不詳

宗仲任住持 還所一寺名於堂名取別 仍其和名

寛永十六年七月二十日宗仲任住持

宗仲任住持 自書院三浦志麻守上信 石室及之如法

寛永十七年六月廿二日宗仲

宗仲任住持 宗仲任住持 宗仲任住持 宗仲任住持

宗仲任住持 宗仲任住持 宗仲任住持

宗仲任住持 宗仲任住持 宗仲任住持

宗仲任住持 宗仲任住持

宗仲任住持 宗仲任住持 宗仲任住持

宗仲任住持 宗仲任住持

宗仲任住持 宗仲任住持 宗仲任住持

宗仲任住持 宗仲任住持 宗仲任住持

宗仲任住持

宗仲任住持 宗仲任住持

宗仲任住持 宗仲任住持 宗仲任住持

宗仲任住持 宗仲任住持 宗仲任住持

宗仲任住持

宗仲任住持 宗仲任住持 宗仲任住持

阿波國於西井太系園因後諸事在赤土左為特也
 任原之也係物新日中節作十節七云々
 所尋之由進之中國山口月廿九日當以爲出初紅
 所目見仕么 砌煙之物子 所尋之身委補
 中之慶安江 辛卯年二月中病氣之良約并
 太系河節或節 所尋之由同年三月十日
 物 所表
 也所之節類之度 所尋之身委補
 中之由中之由
 慶安江辛卯年四月廿九日
 大敵院様 豐津之節屋敷仕么

出有院様 所代口辛六月廿日老之人記之在
 執方 松平伊豆守中後承紙所用之初中
 口辛六月廿日松平伊豆守中後承紙二九日同役
 二日不出
 所目見仕日老之由方外之院様
 上三云々
 同年十二月廿日所初係口百名洋行仕么
 同年十二月廿日
 大敵院様 所名之是勝又所給二所帳子二枚在
 洋行仕么 所白之由中神之日 所給之由
 之由是勝頂戴仕清之由所仕仕候 明曆辛申

石浦新焼了初焼矣信

慶長六年正月廿九日光上所用被

作身手紙

兼慈二重己年閏二月廿九日光上五歳

老中より洋札仕所番頭張子夜抄在座

兼慈二重己年二月廿九日俸物奉付在座

所當入被作身手紙

明子二重己年二月廿九日神田松年長三郎在座

在野番頭張子夜抄在座

明子二重己年二月十八日奉納六日四日在座

之節初安初焼仕所番頭張子夜抄在座

明子二重己年二月廿九日神田松年長三郎在座

初安初焼仕所番頭張子夜抄在座

万治三年五月廿九日神田松年長三郎在座

大敵燒了 神代必奉公相助信

七重己年

右馬頭張子夜抄 所當入被作身手紙

作身手紙加俸九助公二重己年

俸手紙加俸九助公二重己年

俸手紙加俸九助公二重己年

左馬頭張子夜抄 所當入被作身手紙

俸手紙加俸九助公二重己年

同年六月廿五日知所修成し沙路沙古力川
浪馬代と云ふ

同年七月廿八日諸大夫被仰有修修等
名取中

万治四年七月廿八日少方目浪馬代
を以官位より沙路と云

同年八月十二日右様与明次水道橋角三
拾同、雲格同、屋鋪と云至神田元屋鋪と

と傾助奉旨と云
定文元年己未年同八月十二日神田
津波津波津波と云至神田元屋鋪と

同年九月廿日額額林

津波清取津用船作等

同年十月廿八日右様洋成し津礼と云

目原浪馬代時被申取と云

同年十一月廿七日包物元知八百石並浪助奉

津波と云

定文二年己未年十一月十八日神田

津波

常憲降存 津元殿津波津波

概しては右様時被申取と云

公方様津波津波

寛政二年卯年六月廿四日
沖發給了沖傳仕公

定交四甲辰年三月八日神目

沖殿上存身司久非君役京邸沖入奥方

為中近曾我伊賀守大之保和泉子孫

以歿於 沖殿被 作身公

同年七月十日京邸上之沖服下

沖目身被 作身家 止意時服不給取裁

沖伝仕公此名之男物傳

沖年九月十日 臣如与老中
將名不詳中頃

同年八月廿七日依 已

女院 沖所出子出沖物傳取裁仕洋伝
物傳 同月廿九日

竹娘君保 女院 沖所出京邸依仕九月十日

江戸神田 沖殿 沖志被給

同年九月十六日 沖殿 沖目身被

作身家 止意公

同年九月十日

常憲院在神目 沖殿被為 入部 沖殿禮記

無同日止了候

公方儀 時被 其報及後洋伝仕公
寛政五年己卯三月廿日 離林

沖城沖善後具分沖用被 結分五紙

口年四月形 館書均

沖日見象 上意公

口年十一月十日

館書梅 沖善後馬場上 沖使法

寛文九年丙午十一月十日 沖田

沖殿言 沖善後馬場上

上使より 沖紀沖使より 沖使

沖目見被 沖有象

上意於古様 同沖使より 沖使法

寛文十一年亥年四月十日

館書梅 沖善後馬場上 沖使法

口年

口年五月十日 沖田

沖日見象 上意公

延宝元年丙午九月十日 沖田

沖田

口年十一月十日 沖田

沖日見象 館書相善後馬場上 沖田

上意公

延宝二年丙午二月十日 沖田

沖田 沖善後馬場上 沖使法

度々 所免其礼 〇年十月廿二日神田
所免一 所免其被 〇年十月廿二日
所免 〇年十月廿二日 〇年十月廿二日
〇年十月廿二日 〇年十月廿二日
〇年十月廿二日 〇年十月廿二日

〇年十月廿二日 〇年十月廿二日
〇年十月廿二日 〇年十月廿二日
〇年十月廿二日 〇年十月廿二日
〇年十月廿二日 〇年十月廿二日
〇年十月廿二日 〇年十月廿二日

色助利發仕名伊衣古其段中何所為記
〇年十月廿二日 〇年十月廿二日
〇年十月廿二日 〇年十月廿二日
〇年十月廿二日 〇年十月廿二日
〇年十月廿二日 〇年十月廿二日

〇年十月廿二日 〇年十月廿二日
〇年十月廿二日 〇年十月廿二日
〇年十月廿二日 〇年十月廿二日
〇年十月廿二日 〇年十月廿二日
〇年十月廿二日 〇年十月廿二日

河原三子 河原老右衛門
河原三子 河原老右衛門 河原三子 河原老右衛門

友之助
助政

孫六藏子病死

母 三度頃年六節重定女

女 新妻改嫁百年他方へ貞頼

母 貞頼 河原三子 河原老右衛門 河原三子 河原老右衛門

貞頼

女 河原三子 河原老右衛門 河原三子 河原老右衛門

母 貞頼

助壽 河原老右衛門

母 貞頼

慶安六壬辰年八月廿九日河原老右衛門 河原三子 河原老右衛門

兼徳三甲午年二月廿九日河原老右衛門 河原三子 河原老右衛門

明ノ二丙申年十二月廿九日河原老右衛門 河原三子 河原老右衛門

右馬路権左衛門 河原老右衛門 河原三子 河原老右衛門

寛文元年辛丑年六月十日父包物神田初受
助者清欣法也

同年十一月十日父包物元知行八百石常陸
國下野郡那賀郡佐治村其後進一沙敷
作分右寄附西尾清書院中由淺沼氏
寄附為之也物元家物也元元二年物元
書出也

二行

物興

物元忠之節一在石馬下河原守一園坊也
母花岡 妻 昌山下尾了義里女

岩有洗存

沖代兼徳之甲午年六月八日此方目録

浪子代心 沖目元住也

万治二己亥年七月十日沙書院為之取捨也

取捨沙書入也 作中

万治二己亥年六月朔父包物一岡

右島路傳也 沖也

寛文元年辛丑年九月廿三日於沖田

沖殿新敷也百儀之也也

寛文二己亥年六月十日於沖田

沖殿沙書者也 作中

寛文二己亥年六月十日

佐藤孫日光御光

山佐藤上

所入上長所佐藤

寛文七年七月廿九日九日丙午七月廿

日十辰戌年七月廿九日十一月庚午七月廿

日之亥七年三月廿三日延宝三年二月廿月

十二年四月廿九年二月廿二日日光

佐藤孫

所名代功合七友相親也

寛文八年甲申年十二月廿

佐藤孫孫了所名代功合七友相親也

延宝二年甲寅年十二月廿九日父包物新

治平廿年 佐藤孫孫了所名代功合七友相親也

十二年十二月廿九年二月廿二日日光

同年十二月廿九年二月廿二日日光

所名代功合七友相親也

延宝二年甲寅年十二月廿

所名代功合七友相親也

延宝二年甲寅年十二月廿

所名代功合七友相親也

佐藤孫

同年十二月廿九年二月廿二日日光

所名代功合七友相親也

同年十二月廿九年二月廿二日日光

所名代功合七友相親也

延治七年八月廿二

御仁康山王

御宮系

御所

御入夜

公方御時辰

延治八年庚申年六月廿

御書

御書

御仁康山王

御宮系

御書

御書

御仁康山王

御宮系

御所

同奉四月廿八日御地或別見西那

御書九月廿四日御地或別見西那

御書九月廿四日御地或別見西那

御書九月廿四日御地或別見西那

御書

御書九月廿四日御地或別見西那

御書九月廿四日御地或別見西那

御書九月廿四日御地或別見西那

同平九月廿七日河内沙守公之御名
元禄九年丙辰年十二月十日牙山久留部
安守御所之山十助安守御所内中惟相物
守公之御名之御名之御名之御名
守公之御名之御名之御名之御名
守公之御名之御名之御名之御名

右下助河内元禄九年十二月十日河内沙守公
守公之御名之御名之御名之御名
守公之御名之御名之御名之御名
守公之御名之御名之御名之御名
守公之御名之御名之御名之御名
守公之御名之御名之御名之御名

御名之御名之御名之御名
同平九月十日河内沙守公之御名
守公之御名之御名之御名之御名
守公之御名之御名之御名之御名
守公之御名之御名之御名之御名
守公之御名之御名之御名之御名
守公之御名之御名之御名之御名
守公之御名之御名之御名之御名
守公之御名之御名之御名之御名
守公之御名之御名之御名之御名
守公之御名之御名之御名之御名

元禄二年正月廿四日物指ノ事
元禄十一年二月廿九日 長年
元禄十一年八月十日
元禄十二年七月十日
元禄十七年三月十日
元禄十八年三月十日
元禄十九年三月十日

文照院様
元禄十一年三月十日
元禄十二年三月十日
元禄十三年三月十日
元禄十四年三月十日
元禄十五年三月十日
元禄十六年三月十日
元禄十七年三月十日
元禄十八年三月十日
元禄十九年三月十日

臨春院様上
瑞春院様下
以經院洋紙由信

享保二十二年三月

臨春院様上
瑞春院様下

沖月八日
作付分中
御札付
御札付

御札付
御札付
御札付

御札付

沖月見
御札付
御札付

御札付

享保二十二年八月十日
藏九平
御札付

大坂山
御札付
御札付

御札付

口年八月十八日

御札付
御札付
御札付

御札付
御札付
御札付

御札付

御札付

御札付

御札付

御札付

御札付

御札付
御札付
御札付

御札付

万治三年八月廿六日申之頃
代志

岩倉院様
御目見仕上

同年八月廿六日父色物

右之御儀より
御目見仕上

御目見仕上

寛文三年正月十日
御目見仕上

御目見仕上

寛文三年二月廿五日
御目見仕上

御目見仕上

右之御儀より
御目見仕上

御目見仕上

下野守

スナミ

助路
御目見仕上

母色物御目見仕上

寛文九年八月十日

岩倉院様御目見仕上
御目見仕上

御目見仕上

寛文二年正月十日
御目見仕上

御目見仕上

御目見仕上

右記

右記野史記略表四史絶法系列書也

助勝

初名源三郎

母弟同

寛文四甲辰年七月十日

常憲院様御田 所入與片逆包物

作有以唯

右記の後に列書也

助清

初名平八郎

足助清十郎子成

母弟同

夜之助

早世

母弟同

猪之助

早世

母白山下信子義長女

延宝二戊午年四月廿七日九歳

佐藤孫三行目 海自身三行目

助元

約石一長七帛 主水

母系同

妻 大正保濟路子教福女

帝憲院係 清代之海六甲年十月廿八七歳

清方日海張子代志 清自身

元海十之五年六月朔 改行

清中世 作身

同年十二月廿七 緒之更 作身 因防

名身

日年十二月廿八 友信 清礼 清方日海

張子代志 中世 友指 清方日海

清奉台 清方日海 友指 清方日海

清仁 清方日海 友指 清方日海

中興 清方日海 友指 清方日海

清方日海 友指 清方日海

清方日海 友指 清方日海

文憑院係 清方日海 友指 清方日海

清方日海 友指 清方日海

より

同年六月十日 法皇御覽 御紀文子也

御紀文子也 御紀文子也 御紀文子也

御紀文子也 御紀文子也 御紀文子也

常憲院存三回 御紀文子也 御紀文子也

十月於此地方 御紀文子也 御紀文子也

御紀文子也 御紀文子也 御紀文子也

有章院存 御紀文子也 御紀文子也

御紀文子也 御紀文子也 御紀文子也

御紀文子也 御紀文子也 御紀文子也

御紀文子也 御紀文子也 御紀文子也

御紀文子也 御紀文子也 御紀文子也

御紀文子也 御紀文子也 御紀文子也

御紀文子也 御紀文子也 御紀文子也

御紀文子也 御紀文子也 御紀文子也

有德院存 御紀文子也 御紀文子也

御紀文子也 御紀文子也 御紀文子也

御紀文子也 御紀文子也 御紀文子也

御紀文子也 御紀文子也 御紀文子也

御紀文子也 御紀文子也 御紀文子也

御紀文子也 御紀文子也 御紀文子也

御紀文子也 御紀文子也 御紀文子也

所使書翰長、長崎長友是、口下、所書
口下、口下、沖繩、口下
沖自見、口下、使、口下、口下、口下
口下、口下

享保九年二月廿一日、所書院、書院
口下、口下、口下、口下、口下、口下
口下、口下、口下、口下、口下、口下
口下、口下、口下、口下、口下、口下

若君様、口下、所書院、書院、口下、口下
口下、口下、口下、口下、口下、口下
口下、口下、口下、口下、口下、口下

口下、口下、口下、口下、口下、口下
口下、口下、口下、口下、口下、口下
口下、口下、口下、口下、口下、口下
口下、口下、口下、口下、口下、口下
口下、口下、口下、口下、口下、口下
口下、口下、口下、口下、口下、口下
口下、口下、口下、口下、口下、口下
口下、口下、口下、口下、口下、口下
口下、口下、口下、口下、口下、口下
口下、口下、口下、口下、口下、口下

在室而為子... 同日改名... 宣保十... 六月... 此... 同十九甲... 助有... 洋... 日... 七月... 祥... 八月... 八月... 日...

遺曾... 佐...

忠之節 早世

母 弟 曰

女 京都...

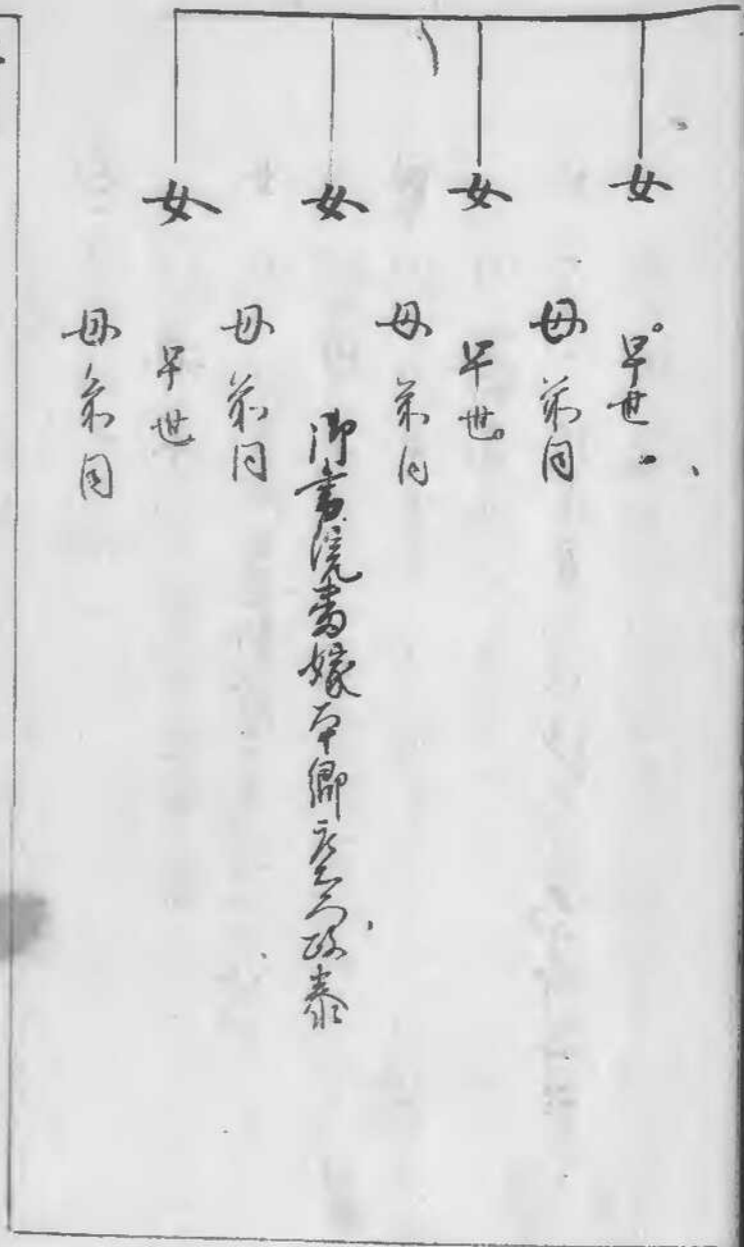
母 弟 曰

男 早世

母 弟 曰

女 行...

母 弟 曰



早世
伊賀守

助有

初名

清書院

三水

美之 沙六郎 助掃也 助免 若少成

養母 大庄院 後子 叔福女 妻

大庄院 叔美 後子 志貞女

実母 夜女 節月 任少成

文無院 痛 伊代 康宮 年 九月初 実父 物掃

後子 与 与 沙 順 之 良 相 与 子 供 一 同

清自 身 任 命

有使院 痛 伊代 康宮 十三年 申年 十月 午 交

助掃 汝 自 三 台 儀 之 右 之 与 与 作 任 命

小 幸 清 院 丹 津 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

享 康 十 九 年 申 年 三 月 廿 六 夜 免 物 之 任 命

任 命 之 任 命 之 任 命 之 任 命 之 任 命 之 任 命

御成金奉還之書文の元方は川移四年
八月以来助元二條出御申す時由古紙
病氣染病年々公方お尋病上京し成御
元方より文口年十月より新色着病能
くしりしは御成金御代古紙由後年
大内書院酒井口向書りし年書り後今川
行國不換延し行院文書後二口一紙
江戸出立口より大内書院助元奉還しり
承し酒井口向書りし年書り古紙由後年
長系御成金奉還し年書り高所より此書
助元病死年月 行院入不仕四月五日

御成金奉還

口年十二月廿日 古紙文助元治月廿日通
くしりしは御成金御代古紙由後年
奉還し年書り

同二十乙卯年二月廿日 古紙文助元治月廿日通
くしりしは御成金御代古紙由後年
奉還し年書り

大御言保の書 御成金御代古紙由後年
同年四月二十日 古紙文助元治月廿日通
くしりしは御成金御代古紙由後年
奉還し年書り

〇年九月廿七日 年月於之
龍以院極三田 伊念法法年物
作分

元文二丁巳年十月十日 大信
伊分

〇年十二月十日 布衣
伊分

〇年十二月十日 伊分

〇年十二月十日 伊分

〇年十二月十日 伊分

〇年十二月十日 伊分

〇年十二月十八日 伊分

各段

〇年〇月〇日 伊分

〇年〇月〇日 伊分

〇年〇月〇日 伊分

〇年〇月〇日 伊分

〇年〇月〇日 伊分

〇年〇月〇日 伊分

〇年〇月〇日 伊分

〇年〇月〇日 伊分

表花助了後又復中續志於延享
十有五年

實延二九己年六月十日午南分少於仕行
作

作

定ノ二壬申年九月日名務所之為比
作出表 上三意財夜之師相減合之及

有作結

日之壬申年十月十日務所出之為比
作

作 山日見之 作

日作張之代押無孫息狀之法

日之壬申年七月十日西所創作
作

日之壬申年六月十日積氣之

是月為類中作之為鳥屋園之

了和而之瑞見中分有於之如子也

鳥屋園二意洋行 作

日之壬申年八月十日積氣之

作 日之壬申年六月十日積氣之

作 日之壬申年六月十日積氣之

作 日之壬申年六月十日積氣之

同奉八月廿二日迄長一内礼福礼
 瑞の仕沙方日根流之代云云
 沙方少被之代
 月年之三之了通新敷仕魯奇与名
 初初了之云云七月廿二卒歳之孫八
 後兼七雅山海源之云云
 管領之義剛大長也

女
 若是物有若女下成

母系如前日之内記云

女
 早世

母系日

女
 早世

母系日

五代目

若狭守

助馬

初名

長身

主水

其之七三係祐賢二甫物有若女下成

去母 奉多路路号志貞女妻 貴父物有貴女
實母 泉女物有貴女

博信院様 所公延喜二年十二月廿六日
物有又流牙之譜志貞之妻貴女

延喜四年十二月十八日
延喜四年十二月廿六日
延喜四年十二月廿六日

延喜四年十二月廿六日
延喜四年十二月廿六日

長成

八月廿六日
八月廿六日

大御方御所
御所

延喜四年八月廿六日
延喜四年八月廿六日

延喜四年八月廿六日
延喜四年八月廿六日

延喜四年八月廿六日

同年丁未月廿三日、尾州より西へ
作由令接取洋紙供
同年六月廿七日

上使等、同日見、
安永二年己未九月廿七日、
高島中、海軍、
在船方、作分

同日己未年九月廿七日、
中令、
同九月廿七日、
所免、

所免、

天明元年己未十二月十二日、

同年十二月九日、
御免、

若君、

定改十二年申年十二月廿七日、
所免、
御免、

伊予、
助造、
約名、

少長兄物馬忠子成護末守

母 家女節目忠子成

女 助有忠子成助馬忠取女

實多 忠祖父助元女

母 節目

女 中書院少司馬嫁社忠子成子成

母 節目後路忠子成女

六代目
伊藤
助 節目 節目 節目 王水

實者助有二男若長兄助馬忠子成

忠母 實助元忠子成助有忠子成國海忠子成國海忠子成

實母 家女節目忠子成 法書 國於丹後忠子成 法方女

源明院孫 沖代明和元甲申年九月忠子成實父

物馬忠子成節目忠子成實父

節目忠子成實父

以和元忠子成甲申年七月十九日忠子成實父
同年十二月忠子成實父
所用見忠子成實父

敬啓

天明元年十二月十二日
浪島 伊予守 伊予守 伊予守
水如公

月年十二月廿七日
日深令三代

若君御 伊予守 日深令三代

天明二年 九月十日

詔 明院 伊予守 伊予守

伊予守

月年十一月 伊予守

伊予守 伊予守

月年十二月十八日

當 伊予守 伊予守

伊予守 伊予守

月年九月

伊予守 伊予守

月年十月

伊予守

月年十二月

伊予守

月年十月

官位一少紀中云

天明八年申年二月十日不吹上少紀中云

卷末大内少輔政高内少輔政高内少輔

正徳八年丙午年三月十日不吹上少紀中云

以載仕云

寛政元年己酉年二月十日不吹上少紀中云

作外云号助政高内少輔

同日二年丙午年二月十日不吹上少紀中云

作外云

同日二年丙午年二月十日不吹上少紀中云

作外云

同日二年丙午年二月十日不吹上少紀中云

作外云古田務河云云

寛政元年壬子年二月十日不吹上少紀中云

作外云

同日二年丙午年

作外云

同日二年丙午年

孝順院御 御用云云

作外云

同日二年丙午年 御用云云

作外云

沖島乃一級相勅比身為沙統後時彼之
千綱一箱沙統代子之孫然比因月之末
沙統後沖能之長鮮綱一箱執之法
因月十三

沖島傳 沖島沖島用職比比身比

寛政八丙辰年六月亦也

若君孫沖島沙統沖島公比 傳身比

同年七月四日代別河原大久保志摩子
尾浦忠家傳大久保目白島比尾浦
沖島用之身比 比上候
寛政九丁巳年二月十日

若君孫 沖島若君孫沙統後相勅比葉山

沖島 沖島若君孫比好比白沙統後時彼

三千綱一箱沖島代子之孫比

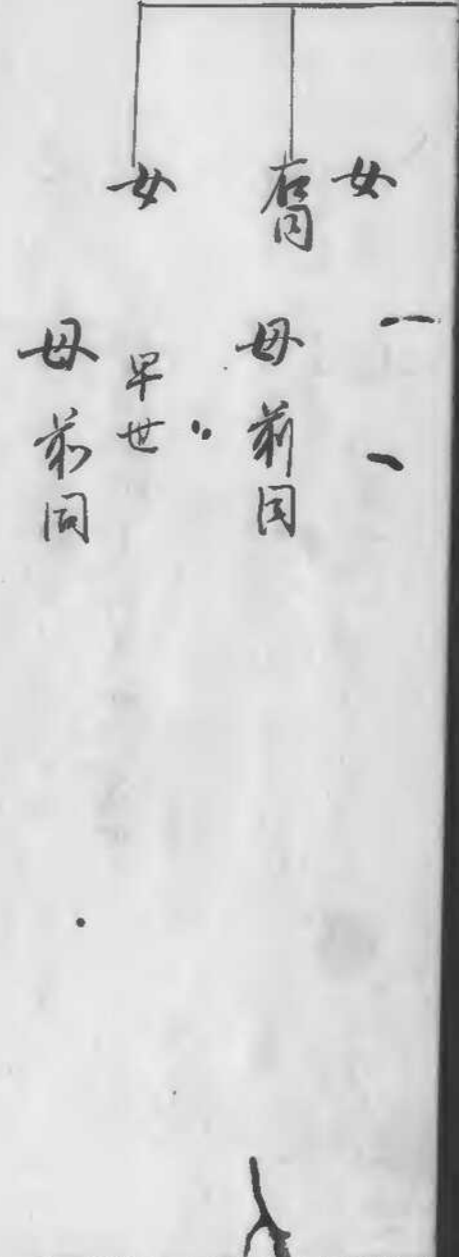
同年二月二十日沖島若君孫比長鮮

綱一箱執之法

榮次郎 早世

母 家女助月言答

女 若君孫助建中若君孫下成
母 若君同



國語守

助 齋 納 名 全 水

其者少多系名是子以久二男助運在子下成
 養母 國語守後子冷方女妻才女行實守助運
 其母 家女助目也口也
 定及二庚申年二月廿二日其父助運死

智若子也 係身同年九月云 沖左力
 日保張子代也
 沖日見仕日七乙卯年十二月十九日中興
 法水性也 係身也
 同九丁巳年十二月十八日法水也
 係身國語守与名取也
 同年一月月廿二日其父日保張子代也
 官位一 法礼中 也
 享祀云 亥年十二月廿
 沖兼 沖孫仕也 係身也
 女 助運若子國語守助齋 要一

女 野山守成之付女

女 西九所創若便守忠致婦子娘源并幼女而忠實
二美之助馬女幼送養女也成

女 西九所書院直記其母信祐阿孫兒曾成忠記之
右同

三水

助順 福名 忠之印

折同序

母伊賀守幼送女 妻織田石田好監信記女
文化之西宮三年三月十日沖去日自深地

子代又小 御目見仕儀

女 沖中細戶金平前政宜惣兵衛小の系又云小政廣
實之 渡邊三郎兵衛忠女幼送養女也成

卷女 伊賀守幼送女

實女 渡邊三郎行孝女

高六千五百石

東儀
幸江
駿河
相模

生國武苑

尾浦
公河内
下加賀
目白老

文化五戊辰年

西九
郷側

曾我伊賀守

曾我中野守

曾我平八郎
後筋系譜

栗中側

曾我伊賀守

曾我本國相説

十の之級 九月廿二日 五七ノ相

幕迄級 五七ノ相 九月廿二日 五七ノ相

信守子平色初五男

祐治 己し物 ちて五ノもの ち依るこ暇云り控り

母名志妻 在并死入女

明ノ元事年二月の初年信治云。承米松浦三ノ

方ノ高子水紙

定六ノ年三月二月廿二日 惟取ノ妻父方ノ尼女

宣又九初年八月廿日

神田屋及ノ良十八ノ所自見

定六ノ二年三月廿九日 承米松浦三ノ 十二月廿日 元改

十の之級 神田屋及ノ良

定六ノ二年三月廿九日 承米松浦三ノ

宣又九初年八月廿日 承米松浦三ノ

延山八甲年五月十日 内休

口年二月廿八日 所自見

口年九月廿九日 西名下 改元 承米松浦三ノ

口年丁月廿二日 病乳 承米松浦三ノ

口年三月廿二日 四月廿二日 承米松浦三ノ

口年三月廿二日 承米松浦三ノ

口年五月廿二日 承米松浦三ノ

口年九月十八日 承米松浦三ノ

口年十月廿二日 承米松浦三ノ

口年三月廿二日 承米松浦三ノ

女 新有以 蒙我七三助 助其妻

母告白

某 三居

母 宣平氏女

某 以信

母 凡元文辛月不...

母告白

伊予守包助二男

助 務

宣平氏

初孫

母不念 妻不惟包 之乞之尔長保女
宣平氏 宣平氏 七月...

神田 宣平氏 及...

宣平氏 宣平氏 八月...

宣平氏 宣平氏 三月...

宣平氏 宣平氏 三月...

宣平氏 宣平氏 九月...

左攝正一五年十一月十日
右永七号三年九月朔日
宣德四年十一月七日
宣德四年八月二十七日
宣德四年八月二十七日
宣德四年八月二十七日
宣德四年八月二十七日
宣德四年八月二十七日

物有 伊賀守 姓保三ノ 三ノ

母衣女

妻大ノ御衣女
安永七年九月朔日
享保十三年十一月十八日
享保十九年三月廿九日
享保十九年三月廿九日
享保十九年三月廿九日
享保十九年三月廿九日
享保十九年三月廿九日

女中山勤一急 五方妻

母旨

右物有依衣元物元衣子
宣出ル以ノ

西九例

文化丑戌辰年 曾我伊賀守

未十二月筆出

先祖書

了
又
原

平氏
比百三拾五
増田
□

栗
中
嶺

曾我
又
志

平性

曾我

心熊之次 丑七、朔

弟之次 丑七、朔 九、四、四、三、川、延、渡
但此六本家、外、陳、山

弟之次 是、利、交、眼、之、言、洋、外、之、次
丑七、朔

九、四、四、三、川、延、渡

但、右、り、の

高野之次 子、信、守、存、於、年、長、久、八、代、の、信、胤

相、控、由、信、人、曾、初、少、信、信、之、次、の、孫

曾、我、之、孫、次、助、兼、編、男

高祐 又、三、小、之、座、由、之、申、次

母、信、田、常、隆、丹、女

妻、初、宋、子、信、守、孫、祐、女

後、妻、酒、井、左、基、尉、兼、次、女

又、父、山、本、尉、守、景、佐、女

右、後、妻、信、吉、行、於、年、長、久、八、代、の、信、胤

始

雲、陽、院、及、交、照、台、後、人、節、却、少、信、守、不、仕

其、後、信、田、信、胤、一、隨、年、仕、也

天、守、八、高、年、相、列、山、田、系、孫、一、節、又、右、者、ヨリ

信、胤、之、孫、初、因、流、罪、之、故、其、初、信、胤、之、入、及

以、及、常、高、之、孫、也、此、節、

信、胤、之、孫、初、因、流、罪、之、故、其、初、信、胤、之、入、及

以、及、常、高、之、孫、也、此、節、

信、胤、之、孫、初、因、流、罪、之、故、其、初、信、胤、之、入、及

以、及、常、高、之、孫、也、此、節、

信、胤、之、孫、初、因、流、罪、之、故、其、初、信、胤、之、入、及

以、及、常、高、之、孫、也、此、節、

信、胤、之、孫、初、因、流、罪、之、故、其、初、信、胤、之、入、及

以、及、常、高、之、孫、也、此、節、

信、胤、之、孫、初、因、流、罪、之、故、其、初、信、胤、之、入、及

以、及、常、高、之、孫、也、此、節、

急度申候内府御身止
之儀御宇候旨行々所成
申上
上様御氣色女可思候同可
御心安分相成候御事
て此之御相行候御事
うへに若此御事直ニ御事
候旨先申上候御事
八月四日 川洋 御判

其次第申上候旨候御事
曾我又云々
其次第申上候旨候御事
尾州へ白大控申上候御事

賜上様御事
尾州へ白大控申上候御事
七百石申上候御事
お重様又御田令
八百石申上候御事
少人申上候御事
九石申上候御事
御事申上候御事
可令知候御事

天正十四年
七月廿二日
信雅

文海御事
常事申上候御事
御事申上候御事
御事申上候御事
御事申上候御事
御事申上候御事
御事申上候御事
御事申上候御事

酒名は古くは知是備三絶勅文を度以て一石
四角に別大出の川筋を度生はれを其部
に在る地帯の伝

お徳御四百石は元行年

日清別紙をい合可成也

文海三集

三月十日

永年

曾我又六より

知行寸目録

一 沙石

白川大工部

大御村内

一 沙石

白川大工部

大御村内

一

合四百石

右海老の元合之伝を也

文海三年

三月十日

永年

曾我又六より

其後其後を接するは時西の既別御家と伝を
持新より保志は其御家なる高松と河江
形をくわく細川曲所は初御家なる曲所なり
通はるは是を度以下所と伝は見仕はれ
上り取系は式と傳其止久くは對面傳是と其
伝は切はり中傳は且只今道何なり其地帯
と御家なる傳別は其地帯は其地帯なり
其地帯は其地帯なり其地帯は其地帯なり

伊豫守公佐野郎已中村日
以百石吉田修治も事し
扶助し流合可成る也
文政四年八月二十日

為我又云との

慶長七年平野騷

伊豫守公佐野郎已中村日
以百石吉田修治も事し
扶助し流合可成る也
文政四年八月二十日
為我又云との
慶長七年平野騷
伊豫守公佐野郎已中村日
以百石吉田修治も事し
扶助し流合可成る也
文政四年八月二十日

寛永三十二年二月十日

其平野守公佐野郎已中村日
以百石吉田修治も事し
扶助し流合可成る也
文政四年八月二十日
為我又云との
慶長七年平野騷
伊豫守公佐野郎已中村日
以百石吉田修治も事し
扶助し流合可成る也
文政四年八月二十日

相島郡大嶺山海保了氏其後古号、仕公中
後寬永元子年克中初成、身至卯妙四年
下悟渡流、幼既没年、作身其後尚祐病死
仕、乃可師、仕其子年治其法
安永十四年十一月、克中和尙八十、法通死法
海保了、不代月、空後、和尙、行。
明丁二年、年六六、節海保了、境失仕、其
節、年、一、不、能、處、常、初、現、地、中、到、以、海、保、了
年、只、今、一、場、所、上、皆、他、年、有、以、右、海、保、了、境
口、妻、這、福、有、社、中、智、公
一尚祐、亦、侍、年、仕、公、是、利、古、号、次、古、美、書、法
、後、足、年、所、在、年、之、條、古、号、之、西、之、上、有、殘、在、侍
仕、以、子、條、年、同、性、有、也、侍、交、相、繼、有、也、也
右、古、号、之、西、之、相、繼、有、也、年、月、而、也

女大子良
古造七子之 借言之妻

母 古造七子之 借言之妻

母 古造七子之 借言之妻

妻 古造七子之 借言之妻

後妻 古造七子之 借言之妻

元初元印

古造七子之 借言之妻

平之新井法

上編回海之部、おまのり、

せり丸指云在又中物系之真話

おまのり中何町田の、七指丸在命

おまのり事記、沈金之山、

定永三

六月七日 中永年

常我土以之師、

左右旅の、
定永八事年、二月、
定永九事年、
大缺、

大缺、

此の如く退却は、
山、
の如く、

行、
九、
同、

定永十事年、
又、

所、
百、

所、

一、成之其方心... 長湯一... 所自... 口年... 竟永... 節... 中... 亦...

計君... 又... 又... 又... 又...

澄... 少... 遠... 初... 之... 早... 上...

口年... 又... 早... 口年...

大... 口年... 井...

元和三年三月之紀

言少也之形純

女之渡馬 渡邊吉乃の仲妻

母上日

女務有千其乃之宅吉乃長利妻

母上日

包功

行子守

西尾河例前

母上日

寛永三年又高祐政武子中子石越原古祐正
P包古祐政原信村 武子石越原古祐正

血統

行乃又乃

母上日 系系氏女

渡邊 彦後氏女

妻 彦後氏女

寛永三年

大蔵之上也也高 出花加高賜武乃表

寛永四年 十一月二日 西尾河高祐正

出花加高 行村高祐正 相高 彦後氏女

彦後氏女 彦後氏女 彦後氏女 彦後氏女

彦後氏女 彦後氏女 彦後氏女 彦後氏女

彦後氏女 彦後氏女 彦後氏女 彦後氏女

彦後氏女 彦後氏女 彦後氏女 彦後氏女

彦後氏女 彦後氏女 彦後氏女 彦後氏女

彦後氏女 彦後氏女 彦後氏女 彦後氏女

彦後氏女 彦後氏女 彦後氏女 彦後氏女

二十三年三月廿五日
日辛七月十日 沙喉腸令 右村中二 國十 〇〇〇
〇〇〇

〇〇〇之 〇〇〇年九月廿三日 〇〇〇夜 〇〇〇九 〇〇〇七
〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇 〇〇〇海院 〇〇〇〇〇〇〇〇〇

女 〇〇〇〇〇〇〇 野間 〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇
母 〇〇〇〇〇

女 〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇
母 〇〇〇〇〇

女 〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇
母 〇〇〇〇〇

女 〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇
母 〇〇〇〇〇〇〇

女 〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇

母 〇〇〇〇〇

女 〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇

母 〇〇〇〇〇

仲 〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇

母 〇〇〇〇〇

妻 〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

某夫

母尚

利物 又子

母尚

正嗣以絶

寛文元年 多知方台和
寛文二年 十月其九日

女 間多方之妻

母上日

長祐 己之知 年以之 丹後幸

女 母 瑞田氏 女

二妻 母 某女

其妻 母 某女 及 母 某女 之 情 女

元禄八年 正月廿五日

申永五年 八月三日 改日入 以年 止 以 以 以

正徳三年 六月廿九日 其妻 母 某女 之 情 女

同 年 七月廿九日 三州 新 野 郡 行 後 日 月 年

正徳五年 九月廿九日 其妻 母 某女 之 情 女

享保六年 九月廿九日 其妻 母 某女 之 情 女

享保八年 正月廿九日 其妻 母 某女 之 情 女

享保八年 正月廿九日 其妻 母 某女 之 情 女

享保八年 正月廿九日 其妻 母 某女 之 情 女

享保八年 正月廿九日 其妻 母 某女 之 情 女

享保八年 正月廿九日 其妻 母 某女 之 情 女

享保八年 正月廿九日 其妻 母 某女 之 情 女

女 母 某女 之 情 女 其妻 母 某女 之 情 女

母上日

昔猶又二下長考又及り日あり

母上日

高水二五年八月廿一日

高水

又二下長考又及り日あり

昔母産後氏女

実母堀田氏女

妻友女

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

高水二五年八月廿一日

今一守後は後中後公別月奉り也
田向中守の
は之崩所存使相上なる
相年

享保二十九年十月九日
元亨元長年九月
十月

八月十九日
九月
十月
十一月
十二月

寅母
日年
十二月
寅母
寅母

長子長女に就るは侍少長官の御孫有能者也
 分少長官不足りては侍少長官に就りて
 長子長女に就るは侍少長官に就りて
 明治元年五月十日に没す
 天明元年七月廿九日死八十三才
 葬りし所 号 塚 守 院 院 方 類
 忠國 長政 己 也

母尚

長子長女に就るは侍少長官の御孫有能者也
 分少長官不足りては侍少長官に就りて
 長子長女に就るは侍少長官に就りて

物紫

母尚

長子長女に就るは侍少長官の御孫有能者也
 分少長官不足りては侍少長官に就りて
 長子長女に就るは侍少長官に就りて

傳祐

母友女

妻の傳多 叔年引ハシ 正繼女
 傳多妻の傳多引ハシ 正繼女
 元正元年九月十八日没す
 明和四年八月廿九日没す
 天明元年十二月廿九日没す
 葬りし所 号 塚 守 院 院 方 類

祐政

母尚

長子長女に就るは侍少長官の御孫有能者也
 分少長官不足りては侍少長官に就りて
 長子長女に就るは侍少長官に就りて

宮内省左近衛少輔

正徳十三年二月三死

幼弟 邦之丞

母上曰

終局之三年五月十日卒年三十一歳 弟邦之丞を
養ふ物あり

守安 仁本原吉 妻あり

母上曰

正徳十三年三月十日卒年三十一歳 弟守安を
養ふ物あり

某 存あり

母上曰

正徳十三年八月十日卒年三十一歳 弟某を
養ふ物あり

母上曰

書 弟邦之丞 邦之丞 邦之丞

修書 右の如く

天明四年二月十日卒年三十一歳 弟邦之丞を
養ふ物あり

天明四年三月十日卒年三十一歳 弟邦之丞を
養ふ物あり

天明四年七月十日卒年三十一歳 弟邦之丞を
養ふ物あり

母上曰

母上曰

女 邦之丞 正徳十三年

長 邦之丞 正徳十三年

母上白

天明六年十一月廿二日
所中恒也全田恒子手紙三紙
左のふ長樂寄子

胡祐因名 又壽 又乃乃

母上白

天明八年九月十日
是為書子

朝祐因名 又壽 又乃乃

吉母芳枝氏女

美子

實母百井氏女

喜口而人少許り家 在知女

天明八年二月十日
吉母芳枝氏女
喜口而人少許り家 在知女
天明八年二月十日
吉母芳枝氏女
喜口而人少許り家 在知女

八月廿九日
所見

天明八年二月十日
吉母芳枝氏女
喜口而人少許り家 在知女
天明八年二月十日
吉母芳枝氏女
喜口而人少許り家 在知女

天明八年二月十日
吉母芳枝氏女
喜口而人少許り家 在知女
天明八年二月十日
吉母芳枝氏女
喜口而人少許り家 在知女

天明八年二月十日
吉母芳枝氏女
喜口而人少許り家 在知女
天明八年二月十日
吉母芳枝氏女
喜口而人少許り家 在知女

天明八年二月十日
吉母芳枝氏女
喜口而人少許り家 在知女
天明八年二月十日
吉母芳枝氏女
喜口而人少許り家 在知女

天明八年二月十日
吉母芳枝氏女
喜口而人少許り家 在知女
天明八年二月十日
吉母芳枝氏女
喜口而人少許り家 在知女

母上白

某年

母上白

右邊は...

高印千名河内
而國於
生西家子
實政是未年
三月
青月
又
信
雨

未三月初
大田志麻子出

系

三信
由
城
是
本
字

万
系

慶中
大田志麻子
弟
七
三
割

栗氏

曾我

希之致

廿七相

正ノ日三三ノ川

是利製糖六日洋川ノ夜也七相

夜之致

九日三三ノ川

曾我伊賀守也物に男

被志

大由

七三ノ川

誠記

伊休

伊守

母之位氏産取有六ノ事

妻 上流流末田村有六ノ産心出女

万治之三年九月朔日父伊守也物清次元
後、伊守也物中宗九ノ日有六ノ行末也伊守也

口年三月廿七日物清月名誠行有六馬代

寛文三年三月廿七日入所末流有六物清有六

寛文三年三月廿七日 賜 二名信

寛文三年八月十一日 幸有六。順賜有六

寛文九年三月朔日 有六。御書 相傳有六

延宝四年九月朔日 有六。御書 相傳有六

口年十月廿七日父也物清氣以ノ有六。御書 相傳有六

大奉書ノ致中口月下八ノ日付奉書也也三月ノ

瑞身位也也也後有六三月ノ贈有六也也

延宝四年三月十一日付奉書也也三月ノ贈有六也也

口年三月廿七日父也物清氣以ノ有六。御書 相傳有六

口年三月廿七日父也物清氣以ノ有六。御書 相傳有六

口年三月廿七日父也物清氣以ノ有六。御書 相傳有六

口年三月廿七日父也物清氣以ノ有六。御書 相傳有六

延宝八年三月廿七日父也物清氣以ノ有六。御書 相傳有六

貞享三年六月十日 同日

口年四月廿二日 所七御入

口年十二月廿二日 所七御入

元禄元年 正月廿五日 是幸山ノ内ノ安宗也
从是山十所 安宗御所 中世但相物 亦多クハ
其ノ内見 若狭等 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ
在リ 如口月廿二日 所七御入 亦多クハ
相物 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ

右十所 亦多クハ 元禄二年 正月廿五日 所七御入
内 亦多クハ 七月 所七御入 亦多クハ 十御入
之 亦多クハ 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ

元禄二年 七月廿二日 神田 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ
御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ

口年九月廿二日 新入 御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ
御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ

口年四月廿二日 所七御入 御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ
御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ

口年十月初十日 所七御入 御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ
御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ

元禄二年 正月廿二日 所七御入 御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ
御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ

元禄二年 七月廿二日 所七御入 御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ
御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ

元禄二年 正月廿二日 所七御入 御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ
御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ

口年十月廿二日 所七御入 御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ
御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ

元禄元年 正月廿二日 所七御入 御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ
御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ

口年三月廿二日 所七御入 御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ
御所ノ内 亦多クハ 御所ノ内 亦多クハ

正徳四年二月廿二日
 正徳四年三月廿三日
 正徳四年四月廿四日
 正徳四年五月廿五日
 正徳四年六月廿六日
 正徳四年七月廿七日
 正徳四年八月廿八日
 正徳四年九月廿九日
 正徳四年十月三十日
 正徳四年十一月十一日
 正徳四年十二月十二日

正徳四年二月廿二日
 正徳四年三月廿三日
 正徳四年四月廿四日
 正徳四年五月廿五日
 正徳四年六月廿六日
 正徳四年七月廿七日
 正徳四年八月廿八日
 正徳四年九月廿九日
 正徳四年十月三十日
 正徳四年十一月十一日
 正徳四年十二月十二日

母 野田氏女

妻 野田氏女

妻 野田氏女

正徳四年二月廿二日
 正徳四年三月廿三日
 正徳四年四月廿四日
 正徳四年五月廿五日
 正徳四年六月廿六日
 正徳四年七月廿七日
 正徳四年八月廿八日
 正徳四年九月廿九日
 正徳四年十月三十日
 正徳四年十一月十一日
 正徳四年十二月十二日

正徳四年二月廿二日
 正徳四年三月廿三日
 正徳四年四月廿四日
 正徳四年五月廿五日
 正徳四年六月廿六日
 正徳四年七月廿七日
 正徳四年八月廿八日
 正徳四年九月廿九日
 正徳四年十月三十日
 正徳四年十一月十一日
 正徳四年十二月十二日

女 貞子 貞子 貞子
母上白
元禄三年三月十一日死

女 芳 芳 芳
母上白
正徳五年二月廿九日死

詔 詔 詔
美母上白
継母 貞子 貞子 貞子
妻 貞子 貞子 貞子
元禄二年八月十七日死
妻 貞子 貞子 貞子
内侍長政十女
貞子 貞子 貞子
元禄元年九月十二日死

妻 貞子 貞子 貞子
正徳三年三月十日死

妻 貞子 貞子 貞子
貞子 貞子 貞子
貞子 貞子 貞子
貞子 貞子 貞子
貞子 貞子 貞子
貞子 貞子 貞子

詔 詔 詔
母上白
正徳三年七月十日死

女 女 女
母上白
正徳二年七月十日死

母上曰

曾秋七三ノ 元又二平 四月廿九日

母上曰

助馬 彦彦 三ノ 若橋 年

母上曰

延享二年七月廿九日 是後高代伊賀守物有
才也

女 元正甲年七月廿九日

母上曰

助平 三ノ 御印

母上曰

西ノ八宮年七月廿九日 是ノ 祐以才也

祐清 彦彦 三ノ 左膳

母上曰

明和八年二月廿九日 是後高代伊賀守物有
才也

祐全 大助

母上曰

西ノ三ノ年三月廿九日 是後高代伊賀守物有
才也

祐生 市ノ 三ノ 御印

母上曰

寛延三年六月廿九日 是後高代伊賀守物有
才也

祐章 三ノ 御印

母女

美父 新嘉坡 曾我七郎助三男

美母 秋女

妻 高良守山景豊永年一息女

正久 延享二年七月九日

正十 延享二年十一月廿九日

正十一 延享二年十一月廿九日

正十二 延享二年十一月廿九日

大福割

明和七年二月八日

喜り 号是性院院田左衛

女 母山島氏女 安永四年八月十九日

某

母上日

明和七年四月廿九日

喜り 号是性院院田左衛

祐清 小市

女

美 新嘉坡 曾我七郎助三男

美母 秋女

妻

明和八年三月八日

正久 延享二年七月九日

喜り 号是性院院田左衛

物之

結末 注以下 七三

母家女

書 丁卯の根卷 北条平法剛小

書 丁卯の根卷 北条平法剛小

天明七年九月廿二日入 根卷 北条平法剛小

寛政八年九月廿二日入 根卷 北条平法剛小

寛政九年九月廿二日入 根卷 北条平法剛小

寛政十年九月廿二日入 根卷 北条平法剛小

寛政十一年九月廿二日入 根卷 北条平法剛小

寛政十二年九月廿二日入 根卷 北条平法剛小

寛政十三年九月廿二日入 根卷 北条平法剛小

寛政十四年九月廿二日入 根卷 北条平法剛小

寛政十五年九月廿二日入 根卷 北条平法剛小

寛政十六年九月廿二日入 根卷 北条平法剛小

寛政十七年九月廿二日入 根卷 北条平法剛小

寛政十八年九月廿二日入 根卷 北条平法剛小

寛政十九年九月廿二日入 根卷 北条平法剛小

寛政二十年九月廿二日入 根卷 北条平法剛小

寛政二十一年九月廿二日入 根卷 北条平法剛小

寛政二十二年九月廿二日入 根卷 北条平法剛小

寛政二十三年九月廿二日入 根卷 北条平法剛小

寛政十一年

二月廿七日

來

去二月廿七日
仙石屋信長

平氏
部百三信三番
堀田屋信長

系信

平氏

仙石屋信長
平氏

平氏

弟枝

先祖之弟枝家元西九河創弟枝
河安之弟枝造示分書山中

弟枝之紋

之字ノ羽
九ノ内盤三ノ川

弟枝之紋

九ノ内盤三ノ川

足利義晴公之弟枝之紋六ノ羽

弟枝又之弟枝高橋之男 弟枝之紋

包物

弟枝之紋
弟枝之紋

母

弟枝之紋
弟枝之紋

妻

弟枝之紋
弟枝之紋

弟枝之紋

弟枝之紋

弟枝之紋

弟枝之紋

弟枝之紋

弟枝之紋

弟枝之紋

弟枝之紋

寛永七年庚午年一月廿九日
大藏少所代善少所代善名 洋凡仕

日一甲戌年七月

所上諸之節少仕仕 還所之節

飛幸名形割得五初

寛永水十六己卯年七月二十日少仕仕

少仕仕

寛永水十七庚辰年二月二十日光

所仕来し節少仕仕

日十八辛巳年二月二十日布少仕仕

慶安元年丙午年六月二十日少仕仕

少仕仕

差有少仕仕

その要也辛卯年十一月二十日少仕仕

洋凡仕

日一乙辰年二月八日光少仕仕

少仕仕

万治三年庚子年四月廿九日少仕仕

大藏少所代 少所代少仕仕

右島氏様より所收程少仕仕

作舟の首象 上意の趣に於て

物壽の象に於て 通事に於て

男の象に於て 物具の象に於て

右鳥の象に於て 舟の象に於て

舟の象に於て 舟の象に於て

舟の象に於て 舟の象に於て

舟の象に於て 舟の象に於て

舟の象に於て 舟の象に於て

舟の象に於て 舟の象に於て

舟の象に於て 舟の象に於て

舟の象に於て 舟の象に於て

舟の象に於て 舟の象に於て

舟の象に於て 舟の象に於て

舟の象に於て 舟の象に於て

舟の象に於て 舟の象に於て

舟の象に於て 舟の象に於て

舟の象に於て 舟の象に於て

舟の象に於て 舟の象に於て

舟の象に於て 舟の象に於て

舟の象に於て 舟の象に於て

神目見下 作有象

上意時時云 沙路威洋船仕公以前未子
係三節一節洋文八少助猪

所中九十一少 出合内老中出後
以年九月十日 歸齊 神目見象

上意下

延享二年 亥年 二月 包助 病氣 身中
以美 出 於 沙路 沙路 沙路 沙路 沙路
病氣 度 沙路 沙路 沙路 沙路 沙路
十月 十日 於 神目 沙路 沙路 沙路 沙路

沙路 沙路 沙路 沙路 沙路 沙路

沙路 沙路 沙路 沙路 沙路 沙路

以年 十二月 十日 包助 沙路 沙路 沙路 沙路
於 沙路 沙路 沙路 沙路 沙路 沙路

公方 孫下 任 上 中 官 取 上 意 時 時 云 作 有 象

宋 督 六 少 右 上 日 中 官 取 上 意 時 時 云 作 有 象
物 與 後 揚 子 上 上 中 官 取 上 意 時 時 云 作 有 象
唯 今 意 上 中 官 取 上 意 時 時 云 作 有 象
上 中 官 取 上 意 時 時 云 作 有 象

延和四年十月廿八日所研病氣
見管公三月廿九日所具乞
能休得之經 涉入死家高修研矣

所目見仕公

以年十月廿九日包物病死仕公之後

後系海經与上葉并

法名奪後院前錄別刺史之而及殺

以年二月十日辰神由法船書賣

白紙二枚洋紙仕公

如壽

多紙形之也 初移為

母

長坂年五年生是女

西之自凡

毒

而多太暗之也者心

定永十巳丁丑年一月廿七日人生

兼慈心元三辰年八月廿九日

差有下沙吉力月隔紙其代系初名

中目見仕公

兼慈心甲午年二月廿七日所性也

仙石因情多似上級知修不山与入上修有

明正二年甲申年三月廿七日丙午
...

口口口口口口口口口口口口口口口口
...

口口口口口口口口口口口口口口口口
...

大御所代以朱印...

...

右馬路橋上... 附收...

...

...

...

...

...

...

明年九月十八日
 三令云云洋紙は
 寛文十三年三月
 内務体云
 明年七月九日
 内政云
 明年十二月廿日
 大納言
 明年一月廿日

本年三月廿八日
 寛文十二年
 去年七月廿六日
 万治沙
 延宝六年
 常憲
 天保九年

天保二之
 幕代
 延宝九年

法名法皇院聖宗天皇
法名法皇院聖宗天皇

助法

初成松 美節 三子

美母

布多夫 猶重 兼有女

美母

家女

美妻

白井 将良 三盛 女

万治元戌戌年二月十八日 江戸生

延宝四年辰辰年四月廿五日 江戸生

助身死 延宝五年三月 江戸生

以年六月十二日 江戸生 日原 源三 代

初子

岩有 宗 冲目 是 仕

延宝六年甲午年三月廿二日 江戸生

古の 伊豫 守 延宝 六年 江戸生

名 三子 女 改 下 山

天和二年戊午年七月十日 父 宗 是

治 武 以 右 名 江戸 生

以 年 七 月 十 日 江戸 生

中 興 伊 守 江戸 生

長年... 仲成... 作... 河... 少... 天... 自...
長年... 仲成... 作... 河... 少... 天... 自...
長年... 仲成... 作... 河... 少... 天... 自...
長年... 仲成... 作... 河... 少... 天... 自...
長年... 仲成... 作... 河... 少... 天... 自...
長年... 仲成... 作... 河... 少... 天... 自...
長年... 仲成... 作... 河... 少... 天... 自...
長年... 仲成... 作... 河... 少... 天... 自...
長年... 仲成... 作... 河... 少... 天... 自...
長年... 仲成... 作... 河... 少... 天... 自...

左... 元... 作... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日...
左... 元... 作... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日...
左... 元... 作... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日...
左... 元... 作... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日...
左... 元... 作... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日...
左... 元... 作... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日...
左... 元... 作... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日...
左... 元... 作... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日...
左... 元... 作... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日...
左... 元... 作... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日... 日...

孝物

種之忠 幼少之節

内匠少 幼少之節

昇將受之 内匠之女

妻

内匠 妻 安後信房子之定孫女

如生年 月 日 不知

元禄四年丁丑年十一月十日 父終し 母

同日 作身 以年 月 日 母終し 母

如年 月 日 終し 入

以生 己亥未年 三月九日 内匠院 昇

内匠 終し 昇

如永 丁亥年 三月廿九日 進也

内匠 終し 昇

正徳元年 卯年 五月七日 内匠院 昇

有章 子 内匠 始

正徳二 壬辰年 三月十日 布衣 昇

同 乙酉申年 六月七日 布衣 昇

有章 子 内匠 始

有章 子 内匠 始

有章 子 内匠 始

有章 子 内匠 始

有章 子 内匠 始

寛文五年申年二月廿四日西九内院儀
同日六月庚戌年二月廿四日西九内院儀

寛文七年壬午年十月廿八日西九内院儀
同日六月庚戌年二月廿四日西九内院儀

寛文二年戌年九月廿七日病歿同日
葬号純酒院後名銀葉

女子

内中村御所
西九内院御所
在御所御所

女子

山田信子

寛文物

母

安房信子

生妻

出五年月日不知

寛文二年戌年三月二十日父位
延享二年丑年六月廿九日在平
延享二年丑年六月廿九日在平
同日西九内院儀

葬母高恩院子岳山後

如子

内膳奉行
長谷川右衛門左衛門

如子

内膳奉行
中山勘十郎五郎左衛門

如子

内膳奉行
西尾勘十郎五郎左衛門

如子

兄寛助右衛門

勤助

美濃守
一膳所 卯左門

養母

江内左衛門

養母

家女

妻

多岐守右衛門

享保十八年五月廿六日十月十日生

惟信公御代

延享三年八月廿日養父権守
次武子右衛門左衛門
少善傳宗因左衛門
寛延四年十月田中
子死

高曆十二
 壬午年二月 小善結紅
 市橋大膳支紀入 日八子紀一節
 以和之也 壬午年十一月廿二日 山書院表
 并係傳系子紀 山書入 相平 左 右 紀
 日八 壬午年 二月 廿 庚辰 行 五 紀
 日八 紀 一節 一福 氣 行 中 善 結 合 紀
 日八 八月 廿 七 小善 紀 入 任 奉 紀
 壬午 八月 廿 七 日 終 後 紀 高 善
 壬午 八月 廿 七 日 終 後 紀 高 善

日九 壬辰年 十月 終 終 身 終 終 終
 安永 二 癸巳年 八月 八 日 終 終 終 終
 日之 甲午年 九月 二 日 終 終 終 終 終
 日之 終 終 終 終 終 終 終 終 終 終

助義

元正高直書 高直字左 高直 高直

終 終 終 終 終 終 終 終 終 終

養母

高直終身 高直終身 高直終身 高直終身

養母

高直終身 高直終身 高直終身 高直終身

妻

高直終身 高直終身 高直終身 高直終身

由曆元年辛酉年七月十日
初月一號
正德元年八月十日
明和七年
以後

安永二年己酉八月八日
新編
後
月年六月七日

但
月年十二月七日
安永二年辛酉十一月廿日
但

安永六年甲申四月日光
月年九月十日
天明元年
月年六月廿日

日之夢卯年十一月廿六日大徳天初子也
日之面午年十二月十三日病死云云六
日子葬少子実相院志未日覺

物福

友一也

母

妻

中世他
名我次郎傳頼女
元吉後与
清快休一成女

安永二套己年二月二日病死

初文龍之也

天明二四年十一月十日病死同年

十二月廿七日病死云云云云

八月甲申年九月廿七日病死

病死云云

寛政七己卯年十二月廿七日病死

病死云云

天明七年未年九月十日病死

病死云云

如子

寛政二辰戌年十月廿七日病死

右ノ通シテ...

八百名者...

定及出己...

弟我友...

出上...

平氏...

系譜

平

弟我友...

平姓

曾秋

先祖之儀表印家尚侍西九中酒戶
曾秋又之儀表印家尚侍西九中酒戶

幕

力七相
九二堂二口月

家之役 右口口

是利義儀公之右口口

助榮

此其の儀表印家尚侍西九中酒戶

母

此其の儀表印家尚侍西九中酒戶

其儀表印家尚侍西九中酒戶

妻

此其の儀表印家尚侍西九中酒戶

其儀表印家尚侍西九中酒戶

享保十乙巳年一江戸生

有徳公清代

享保十乙巳年一月十日父丹後守

新左衛門分利守右衛門守右衛門守

戸川四郎他子死一節

寛保三亥年一月晦日中書院書

大久保在系也作口口口口口口口口

口口口口口口口口口口口口口口

此作候

延享二酉宮年八月廿四日納公作

日年十月十二

大細之存中細戸也 作

日年三月六日布衣被身以作

一 所争所給

所給丹帆

右洋紙仕分所仕

寛延三庚午年八月十六日給

只介洋紙仕分也 作

宝曆二癸卯年十一月廿二日西丸中給

日年三月十八日於東後在也 作

後明之時代

高ノ六西子年十一月廿九日中給

此 作

日年一月乙酉年七月廿六日於吹上西丸給

上後在物及物也洋紙

日年三月十一日西丸給 中給先言也

上後在物及物也洋紙

日年日月十八日西丸給 中給先言也



上流村 上流村及物 洋紙

酉ノ下二五午年四月十日 於吹上

内庭御村 上流村及物 酉年六月十日

於吹上 上流村及物 上流村及物

或及洋紙仕公

酉年十月九日 雜司之右衛門上御所

馬場之御村 上流村及物 射子初

酉年十一月十日 於吹上 上流村及物

上流村及物

酉年十二月十日 於吹上 上流村及物

上流村及物 或及洋紙

酉ノ下二五午年二月十日 於吹上 田馬場

神事 流儀馬村 上流村及物 十月十日 上流村及物

於吹上 洋紙仕公

酉年二月十日 於吹上 上流村及物

或及洋紙 上流村及物

所等 洋紙

野馬 上流村及物

右流儀仕公 所等仕公

昭和八年九月十日 於吹上 上流村及物



後草海 禪年 葬
法名曹原院 戴流及核

如子

母

少善信和年未馬了之記
吉田少之乃盛次女
少善信和年未馬了之記
另我草原若更祐妻死

女子

母

少善信和年未馬了之記
中川勘三郎忠英一子

助員

初年人 後徳了物

母

弟日

妻

少善信和年未馬了之記
水持甚之信清忠子

室ク甲戌年十一月日生

後明公中代 父外後身 少善信和年未馬了之記

昭和云以子年九月初 病死住

以年三月四日 父母後身 証武子中身

打年同防之及 少善信和年未馬了之記

上死之云云

日二也 世年七月乃徳月 少礼一

此身乃流云云 却之信

安永二甲午年十一月朔、清津式於此祀
天の元辛丑年十一月朔、氷也、清津六
子祀、門人子祀、
日、甲辰年、九月晦、古書院、
中經、
日、丙午年、六月廿七、吹上於此祀、
上祭、
日、八月、甲午年、九月、
日、月、
上祭、
上祭、

安永元己未年十一月朔、
十一月、
日、二月、
日、七月、
日、九月、
日、
日、
日、
日、
日、
日、

少令系下 為 或 山 前 河 本 大 内 紀 德 三
 少 先 上 玉 紙 題 騎 馬 古 助 中 心
 日 九 丁 巳 年 六 月 少 活 活 是 樓 子 但 少
 日 年 十 月 少 勝 田 安 庭 中 紀 三 少
 日 十 四 年 年 十 月 廿 二 少 若 活 行 實 子 但
 五 少

女子 母 西中綱戶 俗名又少
 女子 母 若狭又南 妻 紀 德 三 妻
 女子 母 若狭 德 三 妻 紀 德 三 妻
 母 若狭 德 三 妻 紀 德 三 妻
 母 若狭 德 三 妻 紀 德 三 妻

助邦

若狭 德 三 妻 紀 德 三 妻
 母 若狭 德 三 妻 紀 德 三 妻
 妻 若狭 德 三 妻 紀 德 三 妻
 定政 十 年 年 三 月
 水 地 安 志 子 女
 二 田 安 志 清 守 子 女

忠養

母 若狭 德 三 妻 紀 德 三 妻
 母 若狭 德 三 妻 紀 德 三 妻
 天 正 八 年 年 三 月 十 日 水 地 安 志 子 女

志之養子

某 源吉 早世

女子 弟日

女子 弟日 内子能由於此子也 内子能由於此子也 内子能由於此子也

母 弟日

寛政五年六月廿三日自津川

勘之郎 志英 養女 志英 養女

女子 早世

母 弟日

某 合之助 早世

母 弟日

女子

母 弟日

右ノ通也

志之養子 洋行 弟日

寛政十一年 弟日

去三月廿九日
伊川書門書生

尾形氏
九百三拾四番
梅田孝之助

先祖書

市橋医業
正永七ノ月
一ノ月
一ノ月

甲子初書
伊川書門書生
尾形乙吉

系系姓

乃乃名

先初合初代ノ後家名未出高村印家
内印名多合口通所乃乃名未出唯後乃乃
書云

家紋

八重松紋

考級

橋

幕級

八重松紋

乃乃名長明法眼玄風次男

慶長

未了

母

大西乃乃名乃乃名乃乃名

石野乃乃名乃乃名

妻 甲府初妻之出所之記
屋系甚之乃大威女

安永七年二月十二日父也取之空風打了平之
之内也取之吹傍に上りて七之志以男威豊下
お抱圖云乃志多化中書後又書府因坊之他取
享保九辰年八月十日甲府 沖城勅与守府
御所使也之之記 四月廿九日此取一節
有徳院様上御見

甲府十月廿五日甲府上之取也取之速家也取
以之甲年六月十日甲府之病死川不
赤山要法寺に葬り給也白記

一宮 三十一歳 刺殺遺書

小妻 屋系甚之乃大威女

美父 乃名長唯空風三男

美母 石代也之乃女

妻 甲府初妻也
通房十物御養女

旅江戸出生

享保十三甲年二月五日室方平徳也取也取也
甲年八月廿日甲府初妻杯屋也取也
也取也

日丁六亥年九月出所日月廿八日徳月口礼上

赤徳院様上御見西九月十日赤徳院上御見甲府

元文元年六月世方在抱國之百有
少印未、内川記
安永七年二月之、老棄、内書所先
内書所、今内段、内川記、内書所、
口年九月七日、内書所、内書所、
内書所、退、
元文元年六月、内書所、内書所、
口年九月七日

女

甲子初書
福清吉乃乃清書
母 内書所、内書所、

一政

軍

母 内書所、内書所、
妻 甲子初書、内書所、
後、内書所、

内書所、内書所、

元文元年六月廿二日、内書所、
口年九月七日

一定

母 口年

書

甲辰初冬月廿五日
於浦安中務恒女

安永四年九月廿五日父三子也烈一途恒在
永智山口出之也子也
定以八年八月廿四日恒在永智山口
一之也

一重

母 永女

書

甲辰初冬月廿五日
於浦安中務恒女

右書後一重病死一利年長父
也病也所也乃再依恒在仁元宗一
也

於甲辰出生

定以三年十一月廿五日父三子也烈一途恒在
同於甲辰出生之日觀

一清

小原女

母

於浦安中務恒女

一女子

母 口上

宗壽

母 氏

母 氏

寛政二四年八月十日早齋和齋於江戶
宗一齋中子

一之

乙吉

母 氏 杉浦安少齋娘女

妻 氏

宗一齋中子

一之

佐吉

母 氏 杉浦安少齋娘女

一之

文丁

母 氏

龍吉

母 氏

一之

寛政八年八月十日父老病歿于通江
末替一之 乙吉 乙吉 乙吉 乙吉
同十午年十二月五日 乙吉 乙吉 乙吉 乙吉

女子

母 上

右之内

高之儀

和國山保
生國早世

おんおんおんおんおん
納金

宣和三年五月

乃谷乙右成

甲
四月廿四日

法民
手書
堀田乙右守

先祖書

云作
云梁介
云

乃谷長順

先之祖書

於系姓

乃台氏

家之紋

八重結袴

毒・紋

三ツ盾

幕之紋

八重結袴

大藏冠藤足八代源法守肩將軍武承平

後胤

薛已流和神下通

太田山家

乃台度法法下通

一元祖

生國山家

度法院乃台度法

法下

母 命日不知

大國乃台氏

天正十一年未年二月十日法眼書

〇〇〇西四年十一月乃台法下書

文源傳記未年

名德院極神神和一切事跡所業 乃台念後

乃中慶貞 黄倉乃收乃台

慶長年中月乃台形仰見

神君 乃台見住乃後於續所父

神君 乃台自見住乃後是乃台表

名德院極神 乃台見乃在辨伯安後續所

乃台乃乃台乃台

上意

慶長十六年三月廿九日

後陽成院御

御賜之御書御

御事愈後蒙命并慶法院

御事愈後蒙命并慶法院

御事愈後蒙命并慶法院

御事愈後蒙命并慶法院

御事愈後蒙命并慶法院

御事愈後蒙命并慶法院

御感之條

震動之御書以下至今

殿前史書之御書

御書之御書

右侍諸年福二乞下今新

壽仙也

生國山降慶法院

母之御書

慶長八至九年正月九日

御事愈後蒙命并慶法院

御事

御事愈後蒙命并慶法院

御事愈後蒙命并慶法院

御事

御事愈後蒙命并慶法院

御事愈後蒙命并慶法院

元禄元元年七月廿一日於濱野島上船
知以或名之り多岐所事象
上意少命申医所作行身
口二石名年一

後陽成院様 所賜有奉致上意申事
所事念し後御所仕所座表上意申事
為所仕敬感一候

口六年丁月九日 法服上御身
口六年 申年四月廿日

古徳院様所願如し高年我所業申事念し
口七年 申年六月八日

東福門院様 所入日一長所飛仕白根様後時後
十月廿二日 洋紙仕合

寛永三 西宮年一 所上候一長様
牙結

大猷院様所代

寛永七 原年申七月廿三日水防申事人
控持洋紙致合取白名之申人控持申事
口年十二月十日 宛之申事
号中表直虎埋雲伯安法殿
白戸三田大 松守申事
右宗被候

後為成院神中尊信之御

震字 神農 二字 澤水 信

震字 家

神農

長 神農人

右代 不長 任 不長 頃 別 夜 長 澤 是
少 今 不長 頃 末 節 之 所 打 任 也

宗 祐 妻 勅 弟 和 清 少 常 清 名 早 女

口 思 取 弟 名 慶 德 右 宗

元 和 八 上 丙 午 年 十 月 廿 日 死 年 數
号 空 月 慶 德 宗 祐 弟 移 年 中 和 隆 葬

宗 祐 次 男 澤 末 也

月 女 子 名 合 壽 一 國 本 伯 典 言 長 壽

右 字 長 成 宗 祐 子 子 只 在 外 姓 年 任

乃 月 子 也 家 法 和 中 飲 三 氏 言 一 二 乃

是 色 和 中 飲 者 今 以 重 長 家 節 一 志

年 之 去 用 中 秋 之 任 也

宗 祐 女 子 以 匠 師 村 田 志 庵 昌 銘 妻

宗 祐 次 男 慶 德 院 弟 名 伯 安 信 眼

以 勅 弟 清 少 常 清 名 早 女

大體是御所代

寛永元甲子年十二月七日於系院
法橋、宗成

日八^辛 嘉平二月十日為朔日、此禮
所月是法公、日年月、^日知

右住院孫沖隆也、初年秋、所業所平念
以年九月廿九、父伯安法眼、^武
之、至方於西九、^信後、^公公、^正正、^作作、^身身、^公公、

寛永水九^正 甲午四月 日光
所社系、^法法、^身身、^住住、^日日、^正正、^年年、

二月、^日日、^弟弟、^知知、^中中、^橋橋、^孫孫、^所所、^新新、^造造、^所所、^也也、^作作、

从仕、^日日、^年年、^六六、^月月、
所、^上上、^法法、^橋橋、^孫孫、^住住、^身身、^住住、^身身、

以年七月十日、^所所、^城城、^孫孫、^住住、^身身、^住住、^身身、
作身、^日日、^十十、^日日、^嘉嘉、^平平、^三三、^月月、^廿廿、^七七、^法法、^眼眼、

之、^作作、^身身、^日日、^十十、^日日、^己己、^丑丑、^年年、^四四、^月月、^廿廿、^九九、
淡水尾院孫沖隆也、^身身、^上上、^系系、^住住、^身身、^黃黃、^卷卷、

之、^及及、^所所、^住住、^身身、^日日、^十十、^日日、^己己、^丑丑、^年年、^四四、^月月、^廿廿、^九九、
日、^七七、^辰辰、^年年、^四四、^月月、

日光、^所所、^社社、^系系、^孫孫、^住住、^身身、^住住、^身身、^住住、^身身、
日、^十十、^八八、^辛辛、^年年、

廣有院様御少所様毒し初年所業
 所平念之初病氣有 所内
 任来有少所名後平川也
 故は

廣安辰年二月十三日死あり又々
 号中長壽院雲岸伯安法印
 之田大行寺に葬

右廣傳成元年所條伯少知
 後水尾院様并

大融院様御書下至了今所抄仕

沖書寫

從しることをしつゝあふ
 さいのみ神よりぞとてふ
 者のたもとてはあとの
 ころに任りてはあとの
 一子なり 他國に居る
 惟しるはあとの
 年々より大は右の
 まで入つてはあとの
 親許をなすりてはあとの
 とのいふはあとの
 こゝのいふはあとの
 は信頼のいふはあとの

廣傳書初名 芳谷定信
 後書初名 岩崎重信
 日 再成 信成

口 次男

芳名 東菴

年号 華新 市知

慶傳 忠成

慶法院 芳名 伯安 法橋

母 幼名 岩谷 芳名 伯安

大猷院 仲代

寛永 年中 月 不知 法橋 仲代

岩谷院 仲代

兼應 元王 辰年 七月 十日 父 伯安 法橋
於 式 下 至 岩谷 院 仲代 仲代

萬治 三年 六月 某日 岩谷 院 仲代

任 行 寛文 元年 五月 某日

年 終 以 通 知 所 下 岩谷 院 仲代

二 月 續 洋 行 任 行 某 年 月 日

某 年 月 日 某 日 某 日 某 日

日 三 某 年 月 日 某 日 某 日

所 社 某 年 月 日 某 日 某 日

此 行 了 之 下 也

日 三 某 年 月 日 某 日 某 日

此 行 了 之 下 也

日 三 某 年 月 日 某 日 某 日

此 行 了 之 下 也

日 三 某 年 月 日 某 日 某 日

此 行 了 之 下 也

日 三 某 年 月 日 某 日 某 日

此 行 了 之 下 也

日 三 某 年 月 日 某 日 某 日

一 爲府中礼中云

貞享元年四月廿三日

常憲院存於所存之方子實免内所存也

元禄元年六月九日死六十二岁

号春江浩院号山仰安法橋 廣尾 禪堂

寺中 景徳院 莊

杏 祐妻 貞医伴 国尔 玄法 法下 娘

口 忠 氏 廣院号玄格元法橋

右 藤 祐 事 以 陽 祐 家 名 前 有 者 禪 祐

書 中 小 杏 祐 以 男 乃 若 長 瀬 法 殿 玄 風

母 貞医伴 藤 迪 院 國 尔 玄 法 法 下 禪 品 女

常憲院存代

元禄二己年九月十八日父伯安法橋杏祐

中 祐 妻 貞 氏 以 男 乃 若 長 瀬 法 殿 玄 風

介 之 中 有 玄 氏 女 乃 若 長 瀬 法 殿 玄 風

元 禄 六 年 甲 午 十 月 廿 二 日 貞 氏 卒 年 六 十 二 岁

介 之 中 有 玄 氏 女 乃 若 長 瀬 法 殿 玄 風

元 禄 七 年 甲 午 十 月 廿 二 日 法 殿 卒 年 六 十 二 岁

元 禄 十 年 乙 酉 十 月 廿 二 日 玄 氏 卒 年 六 十 二 岁

小 云 乃 若 長 瀬 法 殿 玄 風

元禄六年十二月廿九日
 安永元年二月九日
 安永七年正月廿七日
 享和元年正月廿七日
 安永七年正月廿七日
 享和元年正月廿七日
 安永七年正月廿七日
 享和元年正月廿七日
 安永七年正月廿七日
 享和元年正月廿七日
 安永七年正月廿七日
 享和元年正月廿七日

安永七年正月廿七日
 享和元年正月廿七日

安永七年正月廿七日
 享和元年正月廿七日

生國
 山修
 母
 大行
 長
 女

帝憲院存 沖次

元禄十三年十二月九日 亡父長順信紙
能書事終以遊中宮少日 仰事

元禄十三年三月廿六日 一束一巻
款之法 沖月身古 仰事奉終

元禄十三年三月廿六日 一束一巻
仰事奉終

文照院存 沖次

安永七年十二月廿七日 亡父長順
此邊 守子志 再七言云 長順 守子志

才未了 介知 仰事長順 守子志 守子志
守子志

安永八年三月廿七日 亡父長順
橫河長屋長屋

安永八年三月廿七日 亡父長順
仰事長屋 守子志

安永八年三月廿七日 亡父長順
仰事長屋 守子志

有徳院存 沖次

安永八年十月十日 亡父長順
仰事長屋 守子志

安永八年十月十日 亡父長順
仰事長屋 守子志

安永八年十月十日 亡父長順
仰事長屋 守子志

元文二己年十二月廿六日改番延所以仰才
 西ヶ二至甲午正月廿九日傷氣分中妻
 仰免育於公知日午二月廿九日就通
 仰書仰免之取个身合身取
 富ヶ四甲申年六月廿九日死二十二年
 麻印海雲年中中宗佛院上葬
 号政恭院心史是空
 俊守妻 壽全院恭院俊子清
 年号月日 不不藤原信
 後妻 东平院与来 宗法守良秀女
 惠順 信来 女

次男 所印在右延所 壽全院下信那 女
 武田宗安法俊信後

女子 多合延所 壽全院春院俊子延妻

女子 林 於年法俊 小四 宗法守良秀妻

女子 多合延所 政通院因年法俊良秀妻

首 俊守惠順 芳谷長順信貞

一 博信院探 沖代

寛延三己年三月十五日

所月見以仰才年松前合得礼成

身歿於口月廿五日... 後院極... 明和七年... 於國元...

孝行及於中... 川歌... 安永三年... 所見... 定政元...

号路 彦院 德陰梅軒

俊貞書 中九 醫匠 正月 三英法眼若委

日 惠 信

女子 中九 正月 三英法眼若委

俊貞書

一 篇

母 中九 醫匠 正月 三英法眼若委

俊貞院 代

安永三癸巳年三月廿六日

弟目身之 作身幸始之 良月以也

多致之

以年三月廿六日 行之日 作身也

博止長賀

安政元己卯年六月廿九日 隱指身於不

以年八月廿九日 行之日 隱指身於不

以年九月十日 行之日 隱指身於不

以年九月十日 行之日 隱指身於不

以年九月十日 行之日 隱指身於不

以年九月十日 行之日 隱指身於不

聖旨仕由成老多左記之甲申使
使名甲越前守長谷川源次郎忠房仕上
御中

寛政三年庚申九月廿七日
第日寺と葬

号恭勝院甲世通山

後翰妻貞山醫師之弟康榮元弘通

通山 信系、子

女子

後翰通山

乃公長順後亮

夫人
長谷川源次郎忠房

一
生國
氏記

母 貞山醫師
弟康榮元弘通女

初成寛政三年十一月廿五日
訖式云云七名云云

長谷川源次郎忠房
乃公長順後亮

右 通山源次郎

乃公長順

寛政三年十一月廿五日
乃公長順 印

[Faint, illegible handwritten text on the left page]

Handwritten text on the right page, including a large character '本' (hon) at the bottom right.

